



# 困窮家庭の高校生に向けた オンライン学習支援の 効果に関する調査研究

## はじめに

キッズドアでは2022年10月よりオンラインでの学習支援事業『キッズドア学園高等部オンライン』を新規に開始している。

『キッズドア学園高等部オンライン』は、大学進学を目指す困窮世帯の高校生（※）を対象とした完全無料でサポートする大学受験サポートシステムとなっている。オンライン完結型のため、全国から参加が可能な仕組みであり、活動内容は、学習計画の作成、オンラインカウンセリング、ZOOM&LINEでの質問対応などとなっている。

（※）対象となる高校生は、下記の1～3すべての条件の該当者。2024年2月現在約100名程度である。

1. 大学進学を目指している高校1年生から3年生世代
2. 現在、塾・予備校・キッズドア学園（対面型学習支援）などを利用していない
3. ご家庭の環境がいずれかの要件に該当

- ・住民税非課税世帯
- ・ひとり親家庭
- ・就学支援金受給家庭
- ・扶養家族が多く塾等の費用が捻出できない家庭
- ・その他特別な事情がある家庭

生活困窮者自立支援法の改正では、「こどもの学習支援事業の強化」が盛り込まれており、キッズドアでは、今後は各自治体と連携し、本事業を全国に広げていきたいと考えている。

そのために、本事業による学習支援効果、生活習慣・環境の向上等の支援効果、保護者支援効果を明らかにし、自治体への提案の根拠とする。

なお、2023年本格的始動の事業のため、現時点で大学等への進学実績はまだない。

本調査研究を進めるに当たって、有識者よりアドバイスをいただいた。

### 【有識者】

一橋大学大学院社会学研究科 教授 山田 哲也 氏

## オンライン事業担当統括責任者より

学習支援事業は全国でも広がってきてはいますが、都市部と地方ではその在り方に差があるのが現状です。対面式の学習支援の効果を言うまでもありませんが、日本全国どここの地域でも同じような質の支援を提供できる訳ではありません。本調査ではオンライン学習支援の効果を調査し、対面式の学習支援に劣らぬ支援をオンラインによって提供できるエビデンスとなります。国内ではこれだけの母数集団による調査は行われておらず、本調査が子どもたちにとって今後国内どの地域に住んでいても地域格差を感じることなく子どもたち自身の将来を伴走していく仕組みであるということがわかりました。この調査結果が新しい学習支援の形をつくっていく一助になってくれることを期待しています。

## 調査概要

### 調査の目的

高校生の学習支援を通じて大学進学をサポートすることは、どんな境遇に生まれても、夢や希望を持って、生き生きと成長できる社会の実現につながる。大学進学により、社会での自立や貧困の連鎖を断ち切ることもつながる。キッズドアが行っている高校生世代の支援をオンラインで実施することについて、その効果を把握し、こういった側面があるか分析を行う。

### 調査設計

#### （1）高校生を対象としたアンケート調査

調査目的	キッズドアオンラインを利用することでの変化や効果について、定量的に把握する
調査対象	キッズドア学園オンラインを利用中の高校生
標本数	95件（98件のうち3件途中退会につき除外）
抽出方法	対象者全員にLINEにて協力を依頼
回収数	89件（93.7%）
調査方法	インターネット調査 ※対象者にLINEでURLを連絡し、インターネット上で回答
調査時期	令和5年11月1日～11月23日
調査機関	株式会社インテージリサーチ

#### （2）高校生の保護者を対象としたアンケート調査

調査目的	キッズドアオンラインを利用することでの子供の変化について、保護者の視点から定量的に把握する
調査対象	キッズドア学園オンラインを利用中の高校生の保護者
標本数	95件（98件のうち3件途中退会につき除外）
抽出方法	対象者全員にLINEにて協力を依頼
回収数	93件（97.9%）
調査方法	インターネット調査 ※対象者にLINEでURLを連絡し、インターネット上で回答
調査時期	令和5年11月1日～11月23日
調査機関	株式会社インテージリサーチ

## 調査項目 (1) 高校生世代を対象としたアンケート調査

分類	主な調査項目
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在の学年 (Q1)</li> <li>●進路予定 (Q2)</li> <li>●家庭の経済状況 (Q17)</li> <li>●保護者の最終学歴 (Q18) ※性別/世帯年収/世帯特性はデータ付与</li> </ul>
キッズドア学園オンラインの利用実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カウンセリング等出席状況 (Q3)</li> <li>●オンライン自習室・質問対応利用状況 (Q4)</li> <li>●キッズドア学園オンライン参加の評価 (Q5)</li> <li>●勉強の方法の理解度の変化 (Q6)</li> <li>●キッズドア学園オンラインの特徴・居場所としての評価 (Q7)</li> <li>●困ったときに相談できたか (Q9)</li> </ul>
学習面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強に対する意欲の変化 (Q11)</li> <li>●普段の勉強時間及び参加前後の学習時間の変化 (Q12)</li> <li>●学校の成績の変化 (Q13)</li> </ul>
本人の資質の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●約束や予定を守ることへの意識の変化 (Q14)</li> <li>●計画を立てて行動できるようになったか (Q14)</li> <li>●生活習慣の変化 (Q8)</li> </ul>
オンライン学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンライン学習の特徴についての実感 (Q15)</li> <li>●オンライン学習の良いところ・悪いところ (Q16) OA</li> </ul>
将来への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来の目標が明確になったか (Q14)</li> <li>●将来について考える機会が増えたか (Q14)</li> </ul>
情緒面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前向きに取り組めるようになったか (Q8)</li> <li>●気持ちを人に伝えることができるか (Q14)</li> <li>●周りに感謝の気持ちを伝えるようになったか (Q8)</li> </ul>
家庭面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親に対する相談状況・内容 (Q10)</li> <li>●家族との会話時間や相談機会は増えたか (Q14)</li> </ul>

## (2) 高校生の保護者を対象としたアンケート調査

分類	主な調査項目
基本属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●こどもとの関係 (Q1)</li> <li>●家庭の経済状況 (Q6)</li> <li>●保護者の最終学歴 (Q2/Q3/Q4)</li> <li>●きょうだいの数 (Q5) ※世帯年収/世帯特性はデータ付与</li> </ul>
学習面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強に対する意欲の変化 (Q9)</li> <li>●普段の勉強時間及び参加前後の学習時間の変化 (Q7)</li> <li>●学校の成績の変化 (Q8)</li> </ul>
本人の資質の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●約束や予定を守ることへの意識の変化 (Q10)</li> <li>●計画を立てて行動できるようになったか (Q10)</li> <li>●生活習慣の変化 (Q10)</li> <li>●性格や能力の変化 (Q11)</li> </ul>
オンライン学習の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンライン学習に必要な条件 (Q13)</li> <li>●オンライン学習の特徴についての保護者の評価 (メリット) (Q15)</li> <li>●オンライン学習の特徴についての保護者の評価 (デメリット等) (Q16)</li> <li>●オンライン学習に参加しての家庭の変化 (Q17) OA</li> </ul>
情緒面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気持ちを人に伝えることができるか (Q10)</li> </ul>
家庭面での変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親に対する相談状況・内容 (Q12)</li> <li>●家族との会話時間や相談機会は増えたか (Q10)</li> <li>●保護者自身にとってよかった効果 (Q14)</li> </ul>

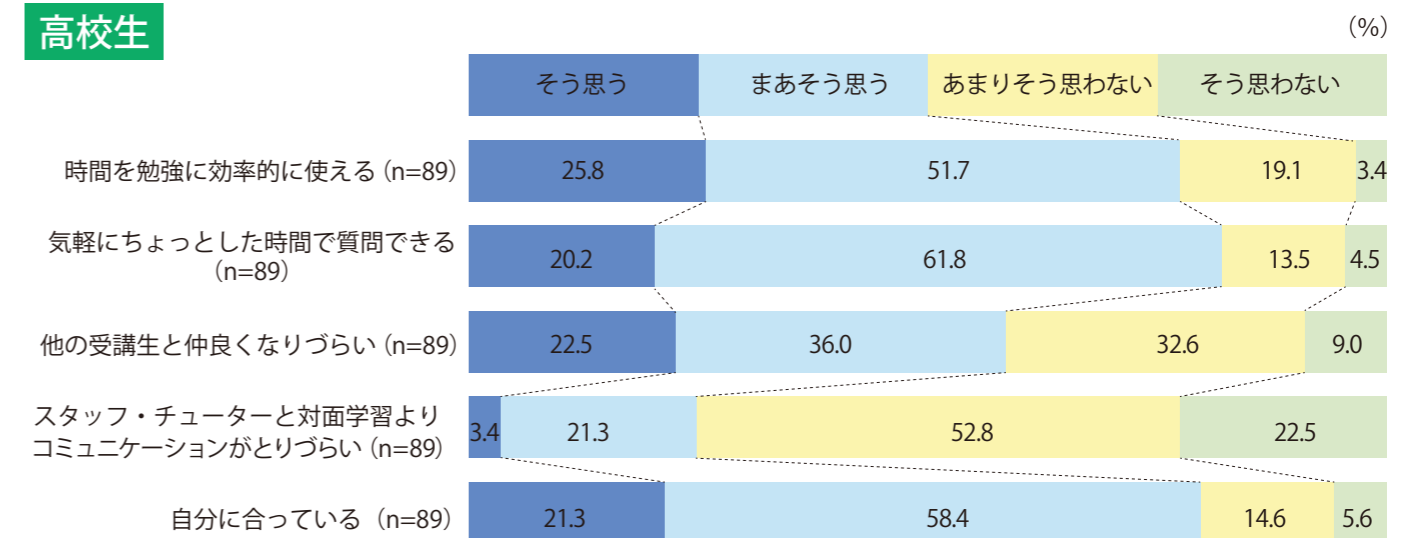
## 報告書の見方

【回答者の属性】・解答者数：93  
 ・回答者のうち母子家庭：94.6%  
 ・年収：世帯年収 200 万未満が 5 割、300 万未満が 8 割  
 ※厚生労働省「2022 年 国民生活基礎調査の概況」から  
 18 歳未満の児童がいる子育て世帯の平均所得金額は 785 万円  
 ※国民基礎調査 663 万

## オンライン学習の有効性について

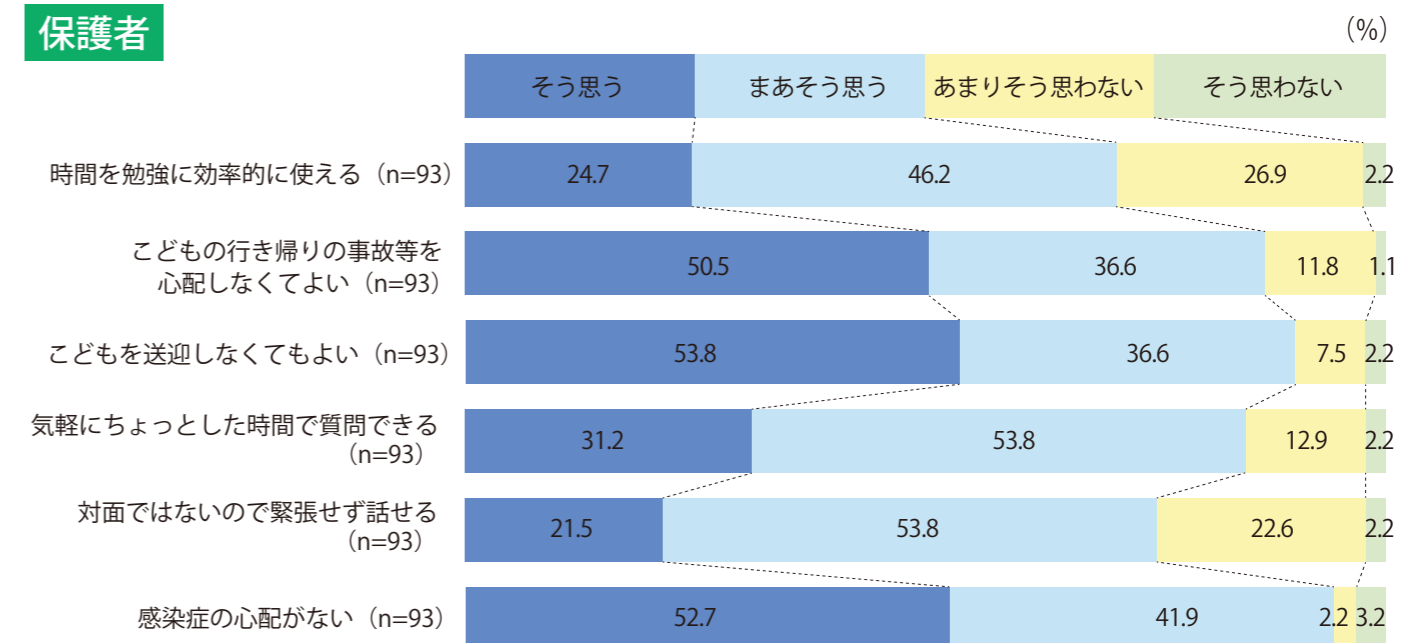
・オンライン学習をすることのデメリットはない  
 ・「気軽に相談できる」、「時間を有効的に使える」、「自分に合っている」では**8割前後がオンライン学習を肯定的に捉えている**

### 高校生



**9割前後**の保護者が「こどもの行き帰りの心配をしなくてよい」、「こどもを送迎しなくてよい」と感じており保護者の負担軽減につながっている。

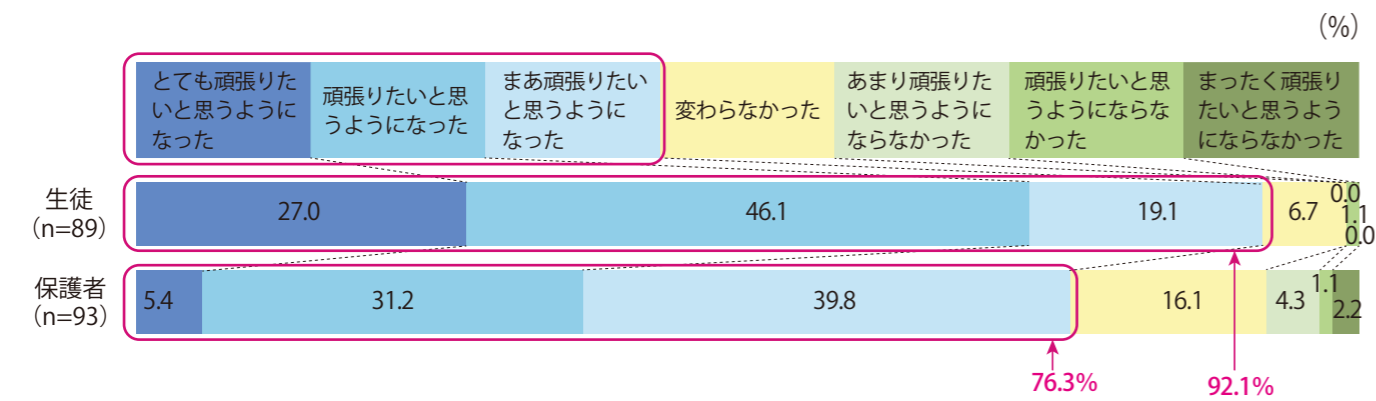
### 保護者



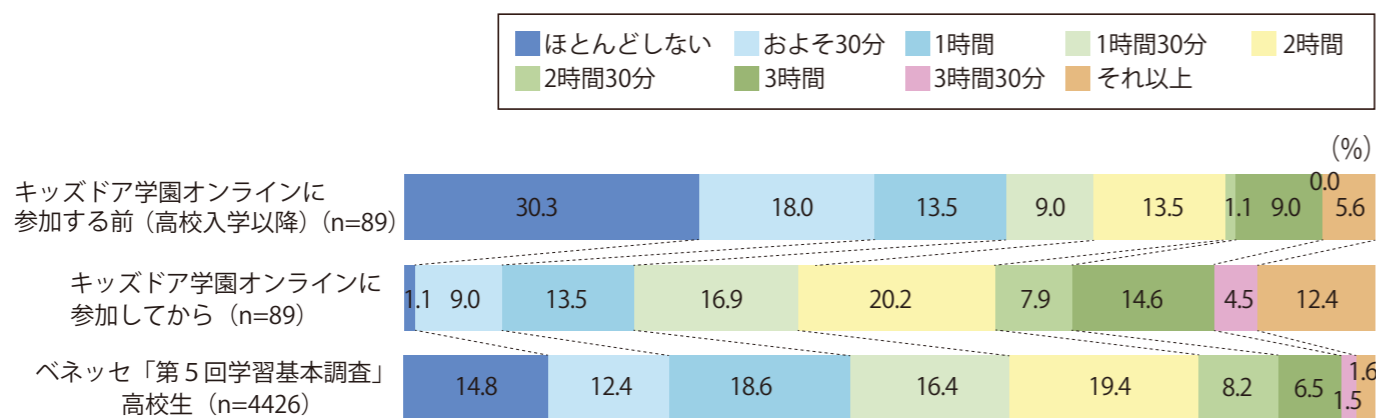
## キッズドア学園オンラインに参加することでの変化

### 【学習面】

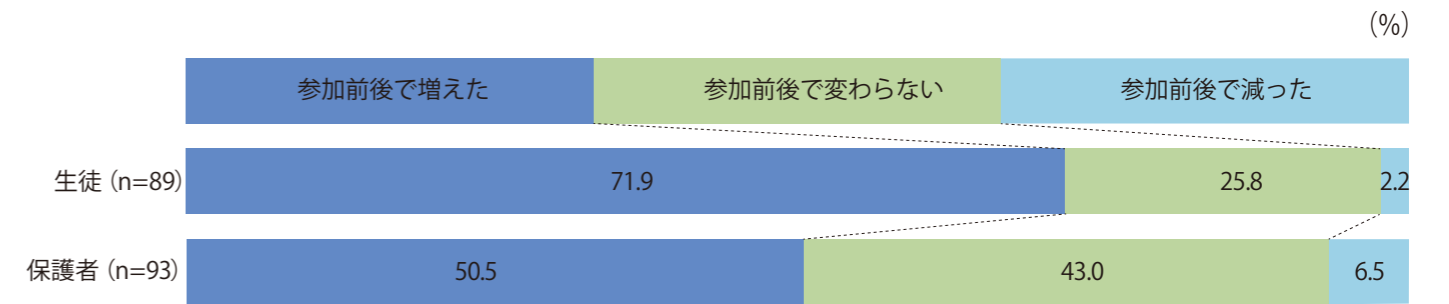
キッズドア学園オンラインに参加することで、高校生の勉強への意欲の変化としては、生徒では、合わせて**9割以上**が『頑張りたいと思うようになった』と回答。保護者でも、合わせて7割以上が『頑張りたいと思うようになった』と回答。



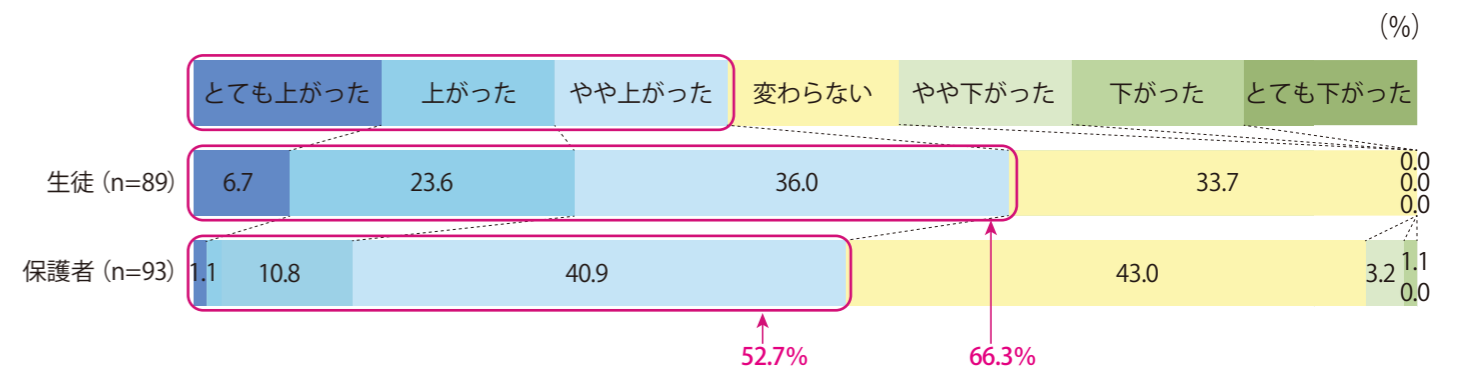
勉強への意欲の高まりに比例するように、勉強時間も、参加前と比べて「ほとんどしない」割合が29.2ポイント減少し、**1時間30分以上の割合が4割未満から7割以上と大きく増えている**ことが分かる。なお、2015年の結果であるが、ベネッセ「第5回学習基本調査」の結果と比較すると、キッズドア学園オンラインに参加以前はベネッセの調査結果より勉強時間が短い傾向にあるが、参加後はベネッセの調査結果より勉強時間が長い傾向となっている。



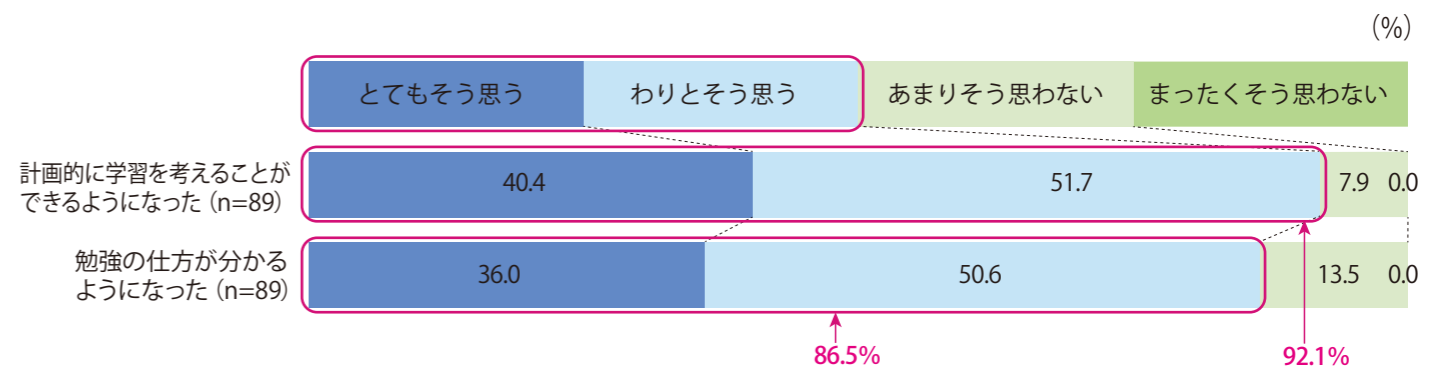
勉強時間の変化について「参加前後で増えた」の割合は生徒の回答で7割以上、保護者の認識でも半数以上を占めた。



生徒の勉強時間の変化以外にも、学校の全体としての成績について、「上がった」との回答が生徒で6割以上、保護者で5割以上となった。



生徒の勉強時間についての意識として、「計画的に学習を考えることができるようになった」が**9割以上**、「勉強の仕方が分かるようになった」が**8割以上**と効果を実感している。

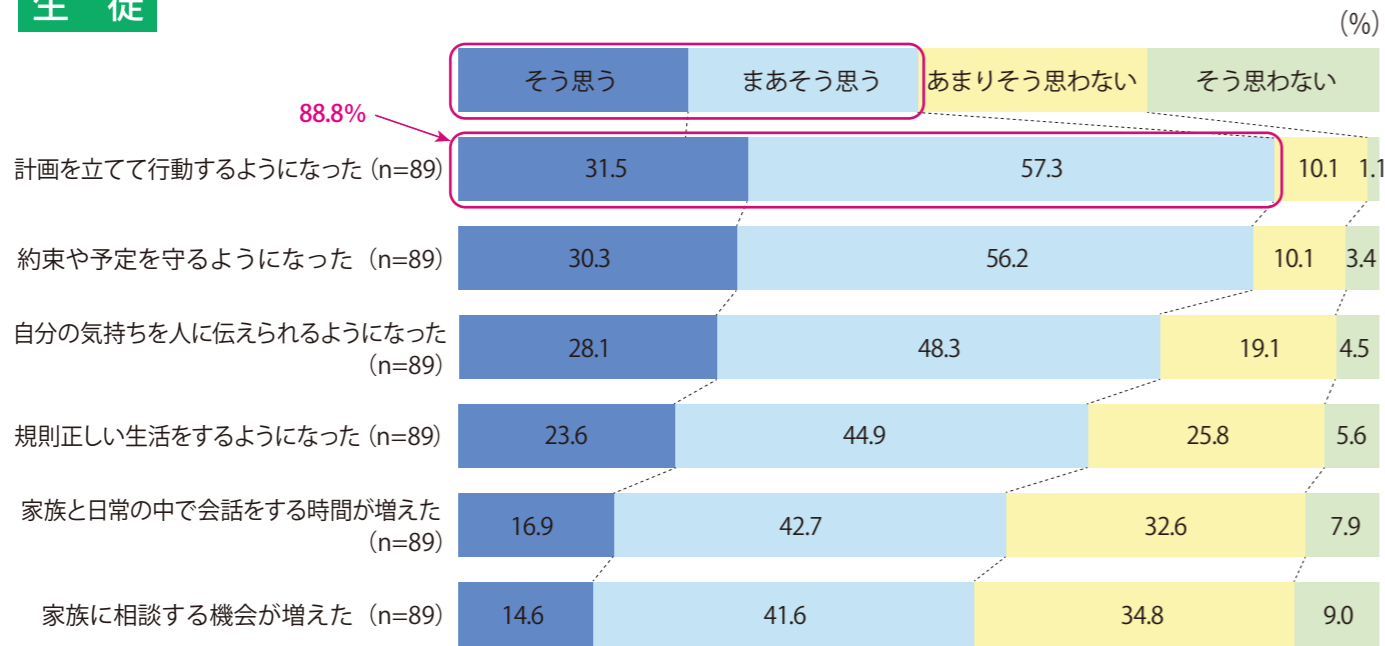


## 【生活・意識面】

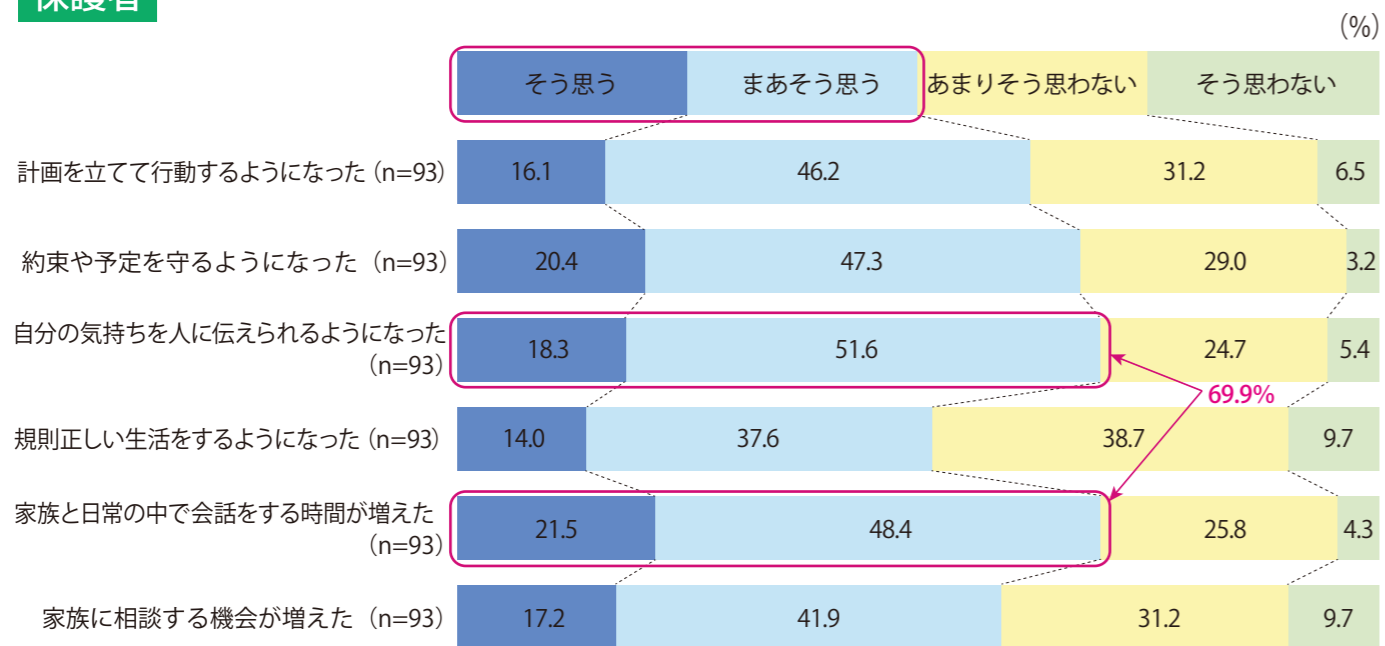
キッズドア学園オンラインに参加後の、生活・意識面の変化について、生徒では「計画を立てて行動するようになった」、保護者では「家族と日常の中で会話する時間が増えた」「自分の気持ちを人に伝えられるようになった」について、肯定的評価（「そう思う」「まあそう思う」の合計）が6項目の中で最も高くなっている。

「家族と日常での会話時間」「家族への相談機会」については、生徒より保護者の方が変化を感じている。

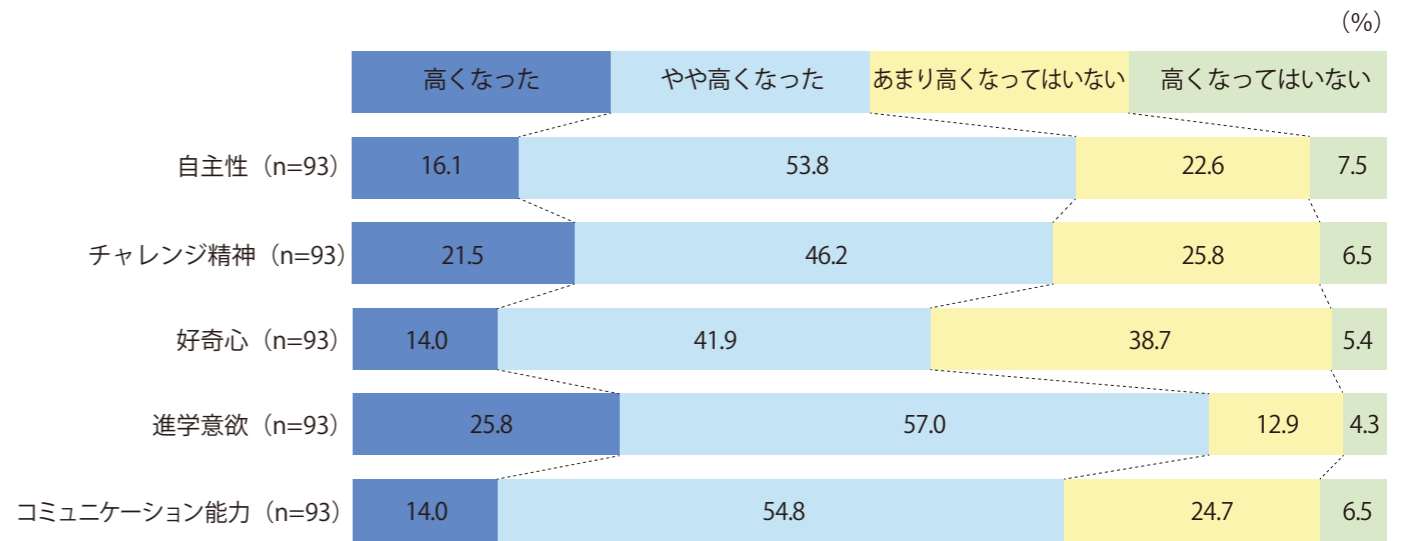
### 生徒



### 保護者



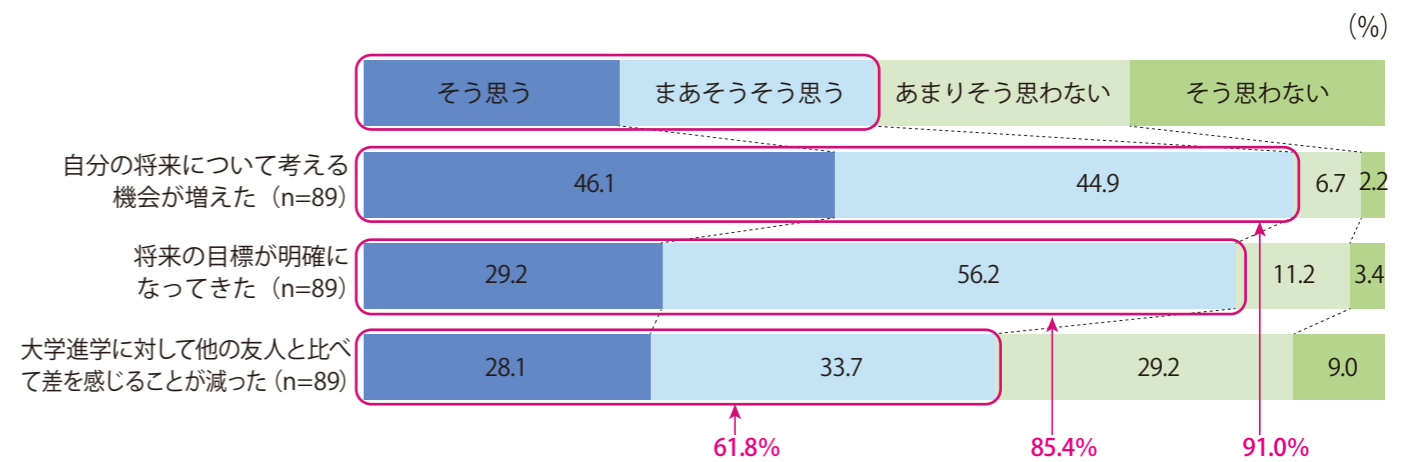
キッズドア学園オンライン参加後の意欲等の変化としては、保護者の8割以上が「進学意欲」の向上を感じており、次いで、自主性、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、好奇心の順でいずれも高くなっている。



## 【進路について】

大学進学を前提とするコースであるが、キッズドア学園オンラインに参加することで、「自身の将来について考える機会が増えた」と肯定的に思う割合が9割、「将来の目標が明確になってきた」が8割以上となっている。また、「大学進学に対して他の友人と比べて差を感じる事が減った」が6割以上となっている。

これは、実際に大学等に通っているスタッフやチューターの方を身近に感じ、定期的なカウンセリング等による相談等を通じて、大学や大学卒業後の就職について具体的にイメージできるようになったことが大きく影響していると考えられる。

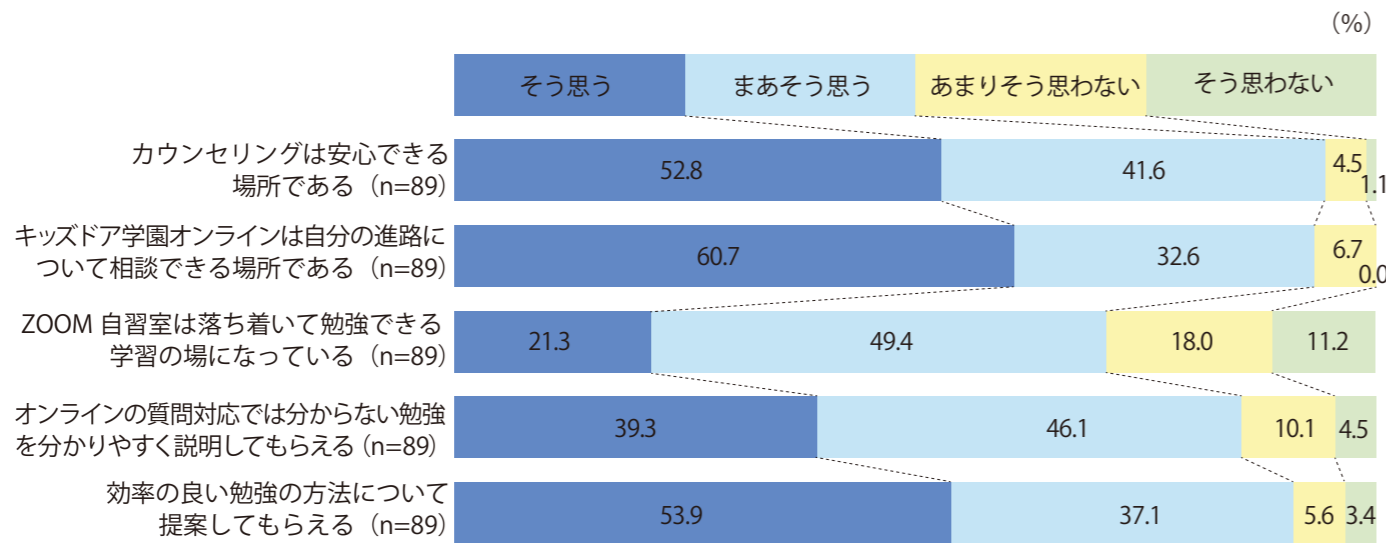


## 「キッズドア学園オンライン」に参加することでの効果

キッズドア学園オンラインに参加することで、自身に影響を与えたこととしては、気軽に相談できる居場所ができたこと、分からないことを聞いたりさまざまな情報を得ることができることといった高校卒業後につながる内容のほか、将来への具体的なイメージができたり、スタッフや友人との信頼関係の構築につながった人が多く見られた。

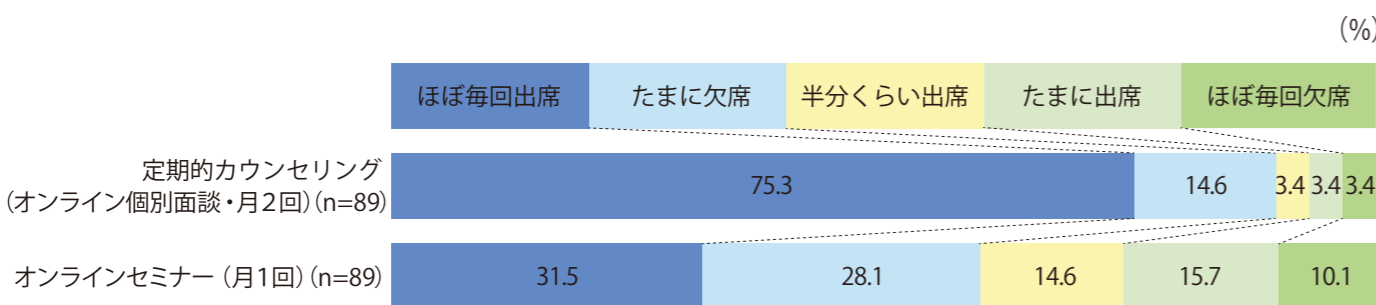
### 【経済的資本】（キッズドア学園オンラインの評価）

キッズドア学園オンラインを、「進路について相談できる」「効率の良い勉強の方法を提案してもらえる」「カウンセリングは安心できる」場所と**肯定的に評価している人が9割以上**。「オンライン質問対応」で**8割以上**、「ZOOM 自習室」で7割が肯定的に評価している。



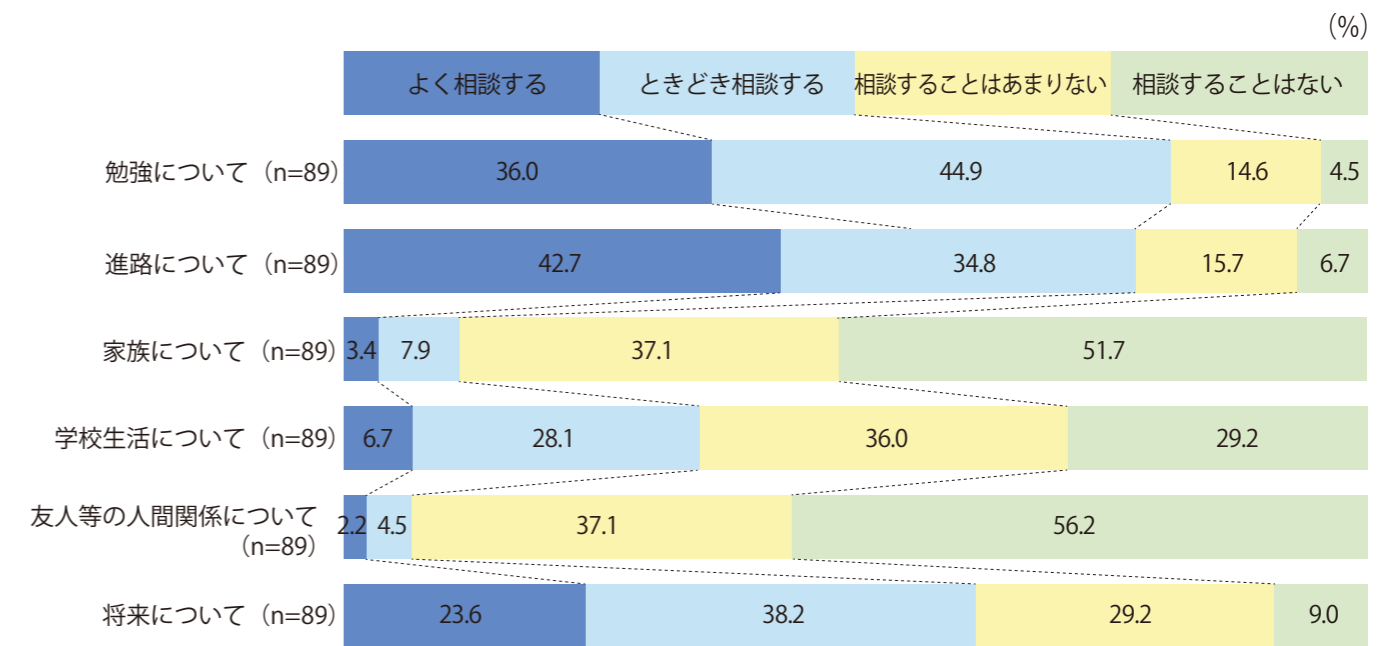
### 【文化的資本】（カウンセリングやセミナーの参加状況）

定期的カウンセリング（オンライン個別面談）と比べ、「オンラインセミナー」の出席率は高くないが、「自分では思いつかない考えを聞くことができる」「楽しい」といった意見があった。

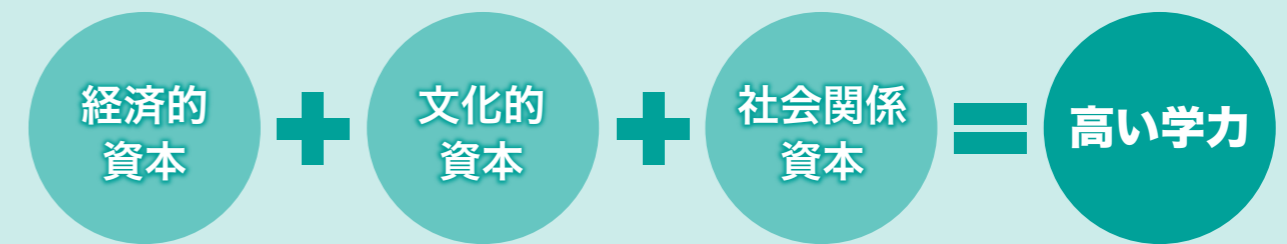


### 【社会的資本】（相談の内容）

キッズドア学園オンラインのスタッフやチューターの人と接する中で、進路や勉強のことが中心になりつつも、将来についてや学校生活での困ったことなどもある程度相談できていることが分かった。多くはないものの、家族のことや友人等の人間関係についても相談していることが分かった。



経済的資本（学習支援や生活支援）に加えて、**文化的資本**、**社会的資本**を居場所で充足することで子どもの健全な成長・学力向上につながる



#### 文化資本

モノ（本、美術品等）、価値（学業重視、学歴期待等）、行動様式（努力、欲求充足延期等）

#### 社会関係資本

人的ネットワークに埋め込まれている、子どもを見守り、ケアし、育てていく上で活用できる手段の総体

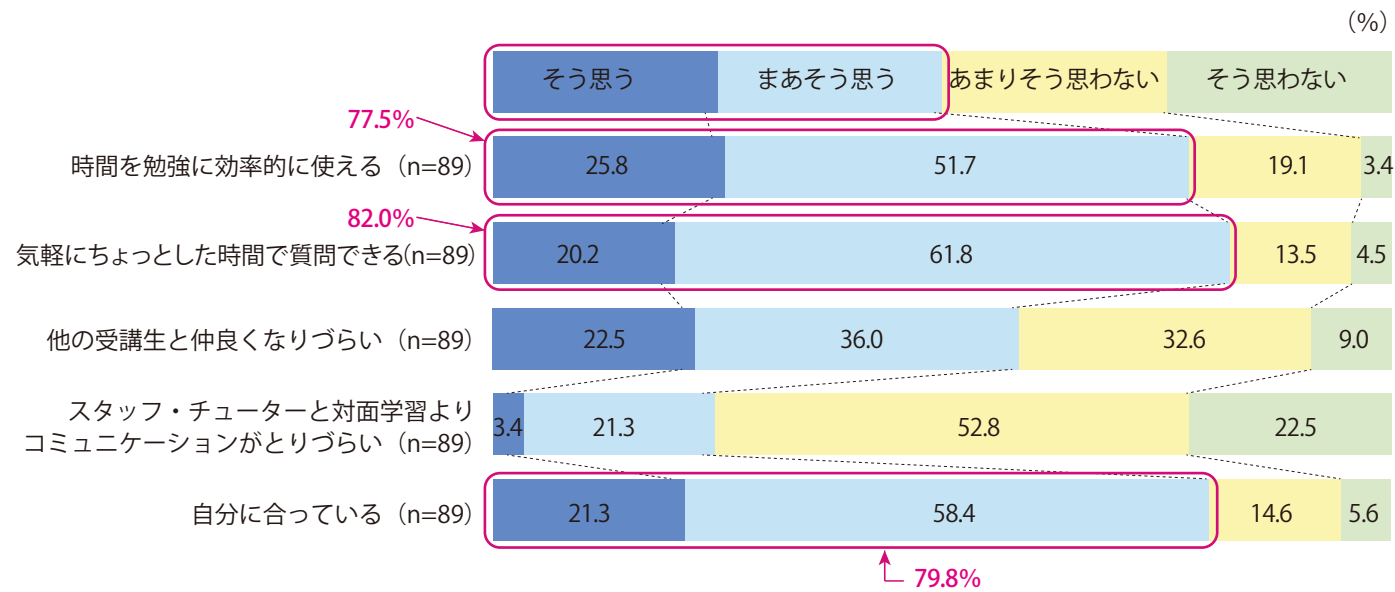
出所：元お茶の水女子大学・耳塚寛明教授調査資料

## オンラインならではの特徴

キッズドア学園オンラインは、オンライン完結型の大学受験サポートシステムである。**オンラインの主なメリットとして、時間の有効活用や、気軽に質問できる点が高く評価されている。**コミュニケーション面でのデメリットについて、他の受講生との交流等には難しさが見られるものの、スタッフ・チューターとの関係においてはマイナス要素はあまり見られなかった。

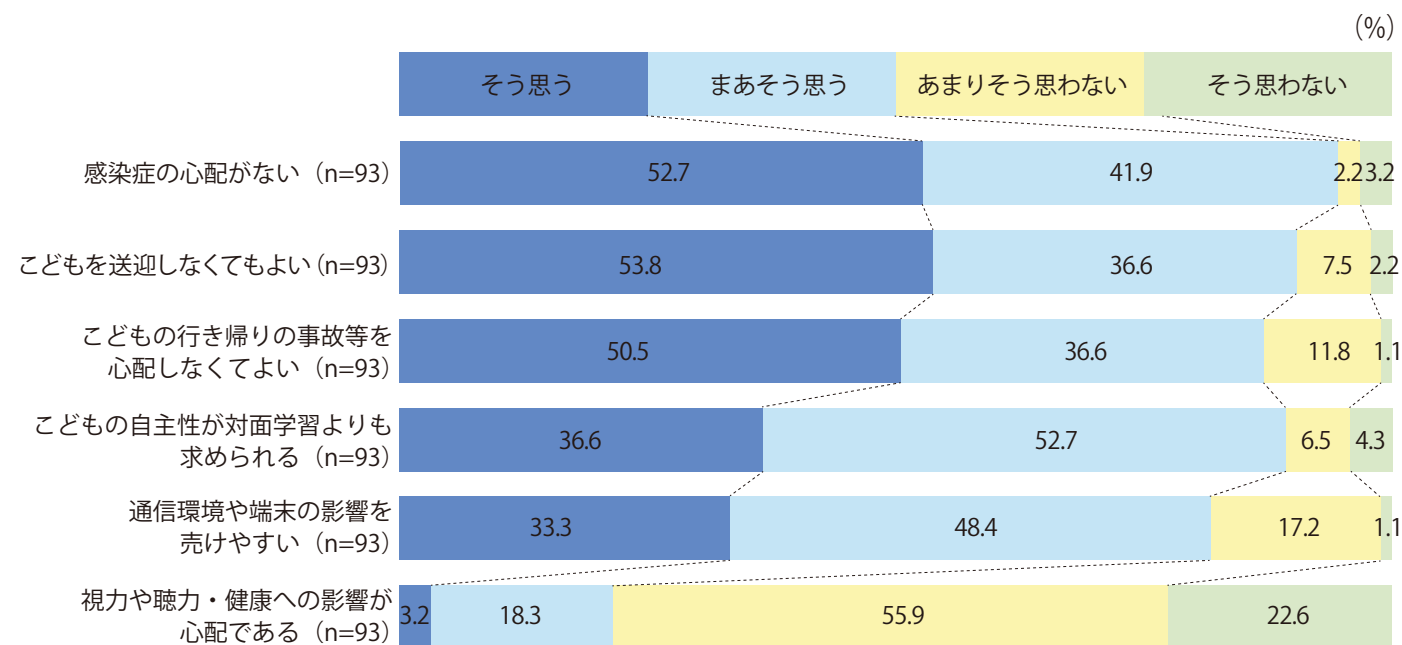
### 【生徒の認識】

オンライン学習の特徴について、「ちょっとした時間で質問できる」「時間を効率的に使える」という点で肯定的評価（「そう思う」「まあそう思う」の計）が**8割前後**と高く、また、「自分に合っている」も高い。「移動しなくてよい分、勉強時間が確保できる」「自分のペースで勉強できる」「体調管理しやすい」などの声が聞かれた。対面学習と比べ「他の受講生と仲良くなりづらい」という点はあるものの、「スタッフ・チューターとのコミュニケーションがとりづらい」については否定的評価が高くなっている。



### 【保護者の認識】

オンライン学習の特徴について、保護者として肯定的に評価している点は、生徒と同様の項目のほかに、「感染症の心配がない」「こどもを送迎しなくてもよい」「行き帰りの事故等の心配不要」といった移動に伴う心配がなくなる点である。オンライン学習の特徴について、「ちょっとした時間で質問できる」「時間を効率的に使える」という点で肯定的評価（「そう思う」「まあそう思う」の計）が**8割前後**と高く、また、「自分に合っている」も高い。「移動しなくてよい分、勉強時間が確保できる」「自分のペースで勉強できる」「体調管理しやすい」などの声が聞かれた。対面学習と比べ「こどもの自主性が求められる」「通信環境や端末の影響を受けやすい」という点はあるものの、「視力や聴力・健康への影響への心配」については否定的評価が高くなっている。



## 生徒・保護者の声

### 生徒の声 良い点

主な回答 ※類似回答はまとめています。

時間を効率的に使える/ 移動しなくてよい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●移動の必要が無くその分時間を確保できる</li> <li>●どんな場所からでも参加できる</li> <li>●対面で行くのがめんどくさい時があるけど、オンラインなら家でできるからめんどくさくない</li> </ul>
気軽にちょっとした 時間で質問できる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●困った時に質問しやすい。すぐに質問できる</li> <li>●質問対応がとても早い</li> <li>●LINEは色々な人が見ているからすぐに返信が来る</li> <li>●LINEで、すぐに分からない所を細かく教えてくれる所</li> </ul>
相談がしやすい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●気軽にたくさん相談できるのが良いと思った。</li> <li>●チューターの人に相談しやすい</li> <li>●わからないことがあったらすぐに相談できる</li> </ul>
家でできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家の中で安心して学習できること。</li> </ul>
教え方が良い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一つ一つ丁寧に指導をいただけたところ</li> <li>●同じ目線で話してくれる所</li> <li>●担当のチューターさんが毎回のカウンセリングで丁寧に情報提供やアドバイスをしてくれるところ</li> <li>●テスト勉強や進路についてのアドバイスがとても役に立っている。</li> </ul>
計画的にできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●少しでも計画的にできるようになった。</li> <li>●一人一人にあった学習の進め方について提案、振り返りを一緒にしてくれる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対面より緊張しない</li> <li>●家族との時間が増える</li> <li>●自信が付けれるのがイイと思います etc</li> <li>●体調管理がしやすい</li> <li>●自分では思いつかない考えを聞くことができること</li> </ul>

### 保護者の声

主な回答 ※類似回答はまとめています。

キッズドア学園 オンラインでの こども自身の 変化	学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勉強に向かう意識については、親が声をかけること無く維持出来ているのは助かります。自身で「勉強しなくていい」と思えるようになってます。</li> <li>●周りの友達が塾へ通うなか、子供にも学習の機会をいただけたので負い目を感じなくなったように思います。</li> <li>●体調が悪く進路や勉強について前向きになれないでいたが、相談ができるようになって当事者意識が出てきたように思う</li> <li>●わが子の場合、成績が良くないので普通の集団塾ではレベルが合わず、かと言ってマンツーマンの個別塾だと集団塾より金額が高すぎて通えませんでした。なので子供も塾へ行っただけ勉強することを諦めていたが、キッズドアのオンラインを偶然知る機会があり、参加できたことでそれまでは描けなかった子供の将来の進路を計画立てて、本日の合格発表で実現することができました。</li> </ul>
	生活 や 意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●携帯のWi-Fiルーターをお借りしていた為助かりました。</li> <li>●自分の状態を話す事で、受け入れてもらえる人が居るという気持ちや、話す事で自分の気持ちが整理されている様子が見える。</li> <li>●好奇心の向上。zoomの利用は慣れたもので、キッズドア以外にも興味がある講座があれば参加してみるなど。</li> <li>●時間を守って行動出来ているところ</li> <li>●寄り道せず、帰ってくる事が出来るようになった。</li> <li>●まだ半年なので目に見えた効果かどうかはわかりませんが、自分の主義主張はハッキリと伝えてくるようになったと思います。</li> <li>●反抗期だからかあまり会話が無く、カウンセリングの時間は私も把握しているのでやっていますが、その他で活用できているのがわかりません。</li> </ul>
	進路 や 将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まだまだ先のことと捉えていた将来について母娘で話し合う時間が増えました。</li> <li>●現役の大学生の方から進学について教えていただき、自分の進路を非常に考えるようになったので大変感謝しております。</li> <li>●変化かどうかはわかりませんが、自分でカウンセリングの予定を把握して準備しているので、できるんだな...と思って見えています。勉強は全くしていませんが、カウンセリング前になると大学調べなきゃ、とかちょっとした行動のきっかけになっています。キッズドアに参加していなければ、全く何にも動いていないはず。知らない人と話すのは本当に不慣れでいやがっていましたが、そのハードルが低くなったように見えます。</li> <li>●大学の初等教育の総合型受験の相談を教育学部のチューターさんにすることが出来強い見方ができたこと参加出来たことを喜んでました。おかげさまで11月1日にクラスで1番に第一志望の合格をいただくことが出来ました。ありがとうございました。</li> <li>●参加するようになってから大学進学の情報、またその後の進路に関して情報などが得やすくなったこともあり、子供自身が進学などのモチベーションも高まったように感じます。</li> <li>●最初の面談から緊張と不安と、先生方のできる子供前提の様な接し方からすぐに自信をなくしてしまい残念ながら全く前向きになれず仕舞いでした。大学進学前提で専門学校希望と言うと沈黙があったり、経済的に大学は難しいと言うと、大学独自の奨学金があるなどステレオタイプの成績上位者や意欲のある子供前提ではなしているかの様な流れに違和感を感じ残念でした。</li> </ul>

### 「困窮世帯の高校生オンライン学習支援の効果に関する調査研究」報告書を読んで

山田哲也  
一橋大学大学院社会学研究科

本調査は、キッズドアが2022年より開始したオンラインでの学習支援事業を利用する高校生とその保護者を対象に実施された。報告書が示すさまざまなデータは、始まったばかりの取り組みのポテンシャルを見極めるうえで多くの示唆を与える貴重なものである。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に、保健・医療・福祉・教育等の対人サービスの提供を中核とする領域においても、ICTを活用したオンラインのコミュニケーションが普及・拡大してゆくことになった。

人の変化や成長に関わる営みには、同じ時間と空間を共有した者同士のフェイス・トゥ・フェイスのやりとりが不可欠と考えられてきた。しかしながら、当初は苦肉の策であったオンラインによる対人サービスが試行されるうちに、対面型支援が果たしてきた機能のある部分については、オンライン上のコミュニケーションでかなりの程度代替できることが分かってきた。それだけではなく、オンラインによる支援には対面によるそれを越える可能性があることも、この間の取り組みを通じて確認された。時間と空間の同期性・非同期性を柔軟に組み替えられるオンライン上のコミュニケーションには、対面でのやりとりとは異なる方法で手厚い支援を提供する可能性が秘められている。

今回の調査結果は、社会経済的に不利な状況にある高校生たちの大学進学をサポートするうえで、オンライン完結型の学習支援が極めて有効な手立てであることを示している。「キッズドア学園高等部オンライン」に参加した高校生の8割前後が、「気軽に相談できる」「時間を有効的に使える」「自分に合っている」と学習面における変化を尋ねた設問に対して肯定的に回答し、「対面学習よりコミュニケーションがとりづらい」と考える者はわずか2割強に留まっている。9割以上が「頑張りたいと思う」方向に勉強の意欲が変化したと回答するなど、オンライン完結型の支援を受けることで学習意欲も高まり、実際の学習時間も増加した様子がうかがえる。学習面にかぎらず、生活・意識面や進路に関する姿勢においても総じてポジティブな方向に変化したと自認する傾向が認められる。

**保護者の回答も、高校生自身が抱く認識とかなりの点で重なっている。キッズドア学園高等部オンラインに参加することで肯定的な変化が生じたとの認識は、生徒自身のみならず保護者の回答からも裏書きされており、支援の効果の確からしさを補強する結果である。**

これらは予想をはるかに上回る成果である。調査が示す利用者たちの肯定的な変化は、対面による支援と同様に、オンライン完結型の学習支援にも学校外の教育サービスにアクセスする際の経済的な障壁を緩和し、支援者とのやりとりを通じて文化資本・社会関係資本の形成を促すポテンシャルがあることを示唆している。

オンラインならではの特徴が、生徒・保護者の双方から高く評価された点も重要だ。対面型の学習支援を代替する以上の固有のメリットがオンライン完結型のサポート・システムにあることも、今回の調査から得られた興味深い知見である。

調査対象となったそれぞれ約100名の生徒・保護者には、始まったばかりの新しい試みにいち早く反応した意欲的な人々が数多く含まれている可能性があり、その点に留意する必要がある。同種の試みをスケールアップした時に今回と同様の変化がすべての参加者に生じるかどうかは定かではなく、さらなる調査を通じた検証が必要だろう。

また、同じ時間と空間を共有する対面型支援と比べると、各自がそれぞれの環境からアクセスするオンライン型のコミュニケーションにおいては、利用者同士の横のつながりを構築することが難しい。今回の調査でも「他の受講生と仲良くなりづらい」と回答する割合が6割弱となっており、同じ立場にある利用者同士によるコミュニティ形成を促す運用上の工夫が今後の課題である。

いくつか留意すべき点はあるものの、今回の調査結果は、オンライン完結型の学習支援の有効性を明確に示している。コロナ禍が教育に与えるインパクトを検討した調査によれば、経済的な資源の多寡と三大都市圏に居住しているか否かが、臨時休業中の学校内外でのオンライン教育受講率を左右していた(多喜2021)。ICTの活用をめぐる格差として教育格差が展開しつつある現状を踏まえると、オンラインに固有な特性を活かした学習支援を拡充する取り組みが、社会経済的に不利な立場にある子どもたちを手厚く支援し、格差を是正する有力な手立てとなることは間違いない。

「小さく産んで大きく育てる」の精神で、今回の調査によるフィードバックを得て、キッズドアの新たな取り組みがさらに洗練され、普及拡大してゆくことを期待している。

#### 【参考文献】

多喜弘文「デジタル化 ICT導入で格差拡大 日本の学校がアメリカ化する日」(松岡亮二編『教育論の新常識』中央公論新社、2021年に所収)。



#### 講評 山田 哲也

一橋大学大学院社会学研究科 教授

1973年、沖縄県生まれ。琉球大学教育学部卒、一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。宮城教育大学、大阪大学を経て現在に至る。専門は教育社会学(教育問題の社会学・教育改革の社会学)。著書に『現場で使える教育社会学』(共著、ミネルヴァ書房)『学力格差への処方箋』(共著、勁草書房)、『学力格差是正策の国際比較』(共編著、岩波書店)など。近年は社会的包摂を拡充するために学校に何ができるのか、という問題に主たる関心を抱いています。



#### 渡辺 由美子

認定特定非営利活動法人キッズドア 理事長

千葉大学卒。2009年特定非営利活動法人キッズドアを設立。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。2018年5月、初めての著書『子どもの貧困～未来へつなぐためにできること～』(水曜社)を上梓。内閣府こども家庭庁こども家庭審議会 こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会臨時委員。厚生労働省 社会保障審議会・生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員。一般社団法人全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 副代表理事。



#### 松見 幸太郎

認定特定非営利活動法人キッズドア 執行役員

大学卒業後大手予備校にて20年勤務。在職中リーマンショックを体験し、予備校に通っていた子どもたちが家庭の経済状況悪化により通塾できなくなる出来事をきっかけに経済的困難なご家庭のサポートに関わる。2016年認定NPO法人キッズドア入職。2018年にキッズドアの姉妹団体である認定NPO法人キッズドア基金を立ち上げ代表理事に就任。現在は学習支援事業の統括、給付型奨学金事業開発を中心に子ども、ご家庭に関わる。

#### 調査実施・報告書作成：株式会社インテージリサーチ

(【HP】 <https://www.intage-research.co.jp/> 【本社】東京都東久留米市本町1-4-1)

インテージグループの一員として、社会・公共領域をテーマとした調査研究、公的統計調査の受託や民間の市場調査のデータ収集を行う。具体的には、マーケティングの概念・方法論を応用し、人々の暮らしや経営と政策をつないでいる。ライフサイクルやヘルスケア、経済行動など、幅広い分野において、意識や行動の実態を把握し、要因を分析。各種経済統計を通じた経営の実情や課題の整理を実施し、生活者支援・産業振興などの政策推進に寄与している。加えて、生活者の意識や行動の変容を図るなど、NPOをはじめとする民間セクターの施策への支援も行っている。

#### 特定非営利活動法人キッズドア

先駆けて日本の子どもの貧困に取り組む。東京、千葉、埼玉、宮城で年間2,000人以上の小学生から高校生世代までの子どもに無料学習支援を提供する。無料学習支援や食事なども提供する居場所を運営する教育支援事業、若者へのヤングサポート事業、保護者に対してのファミリーサポート事業、調査研究やアドボガシーを行う普及啓発活動等を展開している。2016年第4回日経ソーシャルイニシアティブ大賞国内部門ファイナリスト。



キッズドアの活動は、  
みなさまからのご寄付によって支えられています。  
無料学習会や体験活動を必要としている子どもたちやその  
ご家族に届けるため、ぜひ財政的なご支援をお願いいたします。



### ご寄付について

月々 1,000 円から毎月一定額を継続的にご支援いただけます。  
また、ご希望の金額をその都度寄付することも可能です。  
ウェブサイトからクレジットカードで簡単にお手続きいただけます。  
<https://kidsdoor.net/support>



### 税制優遇について

認定 NPO 法人であるキッズドアへのご寄付は税制優遇の対象となります。詳しくはこちらをご覧ください。  
<https://kidsdoor.net/support/deduction.html>



この他にも、法人様向けの寄付プラン（キッズドア応援クラブ）や  
様々なご寄付・ご支援の方法がございますのでお気軽にお問い合わせください。  
お電話：03-5244-9990 メール：kifuinfo@kidsdoor.net



**KIDSDOOR**  
認定NPO キッズドア

認定特定非営利活動法人キッズドア  
URL： <https://kidsdoor.net/>  
E-mail： [info@kidsdoor.net](mailto:info@kidsdoor.net)



独立行政法人福祉医療機構

※本冊子は「独立行政法人福祉医療機構」による助成金で作成しています。

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複製複写（コピー）や転載することは禁止されています。  
あらかじめ許諾を求めてください。